

報道機関 各位

福島と長崎大学の取り組みを振り返り、これからの見据える

## 長崎大学広報誌 Choho 特別号

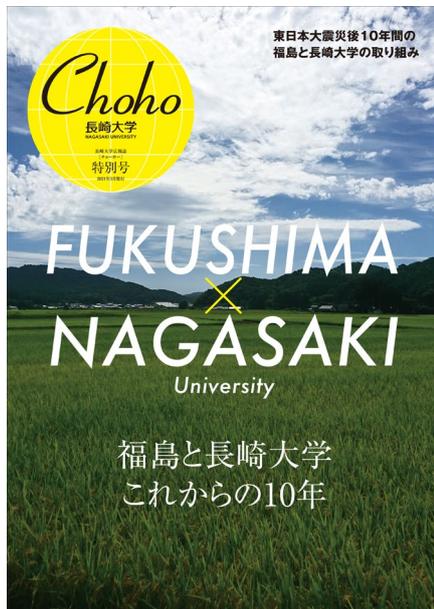
### 「福島と長崎大学：これからの10年」発行

長崎大学はこの度、広報誌 Choho 特別号「福島と長崎大学：これからの10年」を発行します。

長崎大学は、2011年3月11日の東日本大震災発生時から現在まで、被災地に寄り添い、支援を継続してきました。本冊子では、復興支援の軌跡を振り返ると共に、本学が連携協定を結ぶ3つの町村の『これから』について、首長や住民、本学教員のインタビューを交えて紹介します。

#### ◆ 広報誌 Choho 特別号「福島と長崎大学：これからの10年」について

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故から10年。長崎大学は、被災地に寄り添い、ニーズを汲み取りながら支援を継続してきました。長崎大学が連携協定を結ぶ3つの町村の10年の復興支援の軌跡をご紹介します。



Choho 特別号

#### ■ Choho 特別号コンテンツ

『環境と地域の再生にチャレンジ』

- 山下俊一 福島県立医科大学副学長・国際交流センター長
- 量子科学技術研究開発機構高度被ばく医療センター長
- 長崎大学名誉教授

『激動の10年から穏やかな10年へ』 川内村 遠藤雄幸 村長

『厳しい状況でも帰還しやすい町に』 富岡町 宮本皓一 町長

『町の存続をかけた帰還住民4000人が目標』 大熊町 吉田淳 町長

『支援と人材育成を継続した長崎大学』

長崎大学

原爆後障害医療研究所 折田真紀子 助教

教育学部 星野由雅 教授

歯学部 藤原卓 教授

医学部保健学科 吉田浩二 准教授

『福島イノベーション・コースト構想』

福島イノベーション・コースト構想推進機構 伊藤泰夫 専務理事

『福島だけが経験した複合災害を伝承』

高村昇 長崎大学 原爆後障害医療研究所 教授／福島未来創造支援研究センター長

東日本大震災・原子力災害伝承館長

『真っ先に駆け付け支援を継続した長崎大学』 経済産業省大臣官房総務課 井上博雄 課長

『豊かさ、大らかさが戻ってきた』 川内村商工会 井出茂 会長

特別寄稿

『震災と原発事故の記録と記憶の伝承に向けて』 福島県 内堀雅雄 知事

『エールを送り合った10年』 長崎市 田上富久 市長

本誌は3/9（火）頃を目途に県内報道機関へ配布させていただく他、本学HPから閲覧することができます。（電子ブック／PDF形式）

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/info/publicity/fukushima02.html>

ご希望がございましたら、追加での配送も可能です。下記問い合わせ先までご連絡ください。



この他にも、東日本大震災から10年という節目の年に、改めて本学の取り組みを知っていただくために、動画『長崎大学×川内村 10年の歩み』を作成、公開しております。

長崎大学は、現在福島県の3つの町村と連携協定を締結していますが、その中でも最も早く協定を結び、放射線量の測定や住民説明会など、帰還に関する支援をはじめたのが、川内村です。動画では、東日本大震災から東京電力福島第一原子力発電所の事故による一時全村避難、そして帰還における、これまでの長崎大学と川内村との関りをまとめております。



動画は下記 URL、もしくは左記のコードよりご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=Fw1-XqV-7Rk&feature=youtu.be>

海外の方もご覧いただけるよう、動画には英語字幕が表示されます。



**【本リリースに関するお問い合わせ先】**

冊子の内容について

原爆後障害医療研究所 担当：高村 昇 教授

TEL：090-4989-0923

Mail：takamura@nagasaki-u.ac.jp

冊子の配送希望について

広報戦略本部広報戦略課

TEL：095-819-2007

Mail：kouhou@ml.nagasaki-u.ac.jp

本件に関する取材希望について

長崎大学 HP「取材・撮影申込フォーム」よりご連絡ください。

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/kouhou/interview/index.html>